

## 「平成 29 年度 医療介護連携に関する意見交換会」グループワーク結果

テーマ：医療介護連携シートの活用の現状と今後の具体策について

方法：1 グループ 6～7 名 1 2 グループに分けテーマにそって K J 法にて実施

### I、連携シートの書式に関すること（構成や項目）

- ・シートの内容が精神科には適していない
- ・様式変更時の周知が大変
- ・医療的処置、ケア内容等の記載が少ない（項目不足）
- ・項目が多い
- ・複雑すぎる
- ・書きたい項目がない、家族構成の欄がほしい
- ・情報が多すぎて大事な点がわかりにくい
- ・様式の記入が多くて面倒（シートの簡素化、情報がどの程度必要か）
- ・ケアマネ側～シートの作成困難（時間がない、前日に退院の連絡がくる）
- ・医療側～在宅における欲しい情報がない
- ・在宅と入院時では、大切な情報が違ってくる
- ・入院時は、既往歴、ADL、介護度とケアマネがわかればよい
- ・急性期用と回復期用で書式を分けている
- ・作成に時間がかかる
- ・看護情報より役立つ 生活歴がわかる
- ・シートの情報が多く活用しにくい
- ・シートがなくても情報共有が図れる（必要性）
- ・パソコン入力が不慣れで手書きになってしまう
- ・別の様式を使っている。制度上の要件を満たさない
- ・サマリーを作成するのでシートは活用していない
- ・シートを知らない

### II、コミュニケーションに関すること

- ・入院中の関係者どうしのコミュニケーション不足
- ・ケアマネージャーが入院を知らない
- ・人によって連携に差がある
- ・ケアマネ、居宅により情報提供があるとき、ない時がある
- ・窓口の明確化
- ・お互い欲しい情報がずれている
- ・良い点～ケアマネさんが事業所に足を運んでくれるようになった
- ・病院の連携不足（システムの問題）
- ・入院したら迅速な電話連絡（病院から）

### Ⅲ、システムに関すること

- ・シートがあることを知らなかった
- ・活用されていない
- ・シートを初めて見た～周知不足 わからない事業所がある
- ・シートの意味（必要度）がわからない
- ・シートの活用不足（別シートの活用 知識不足）
- ・シートの理解がされていない
- ・病院によって取り扱いや理解度にばらつきがある
- ・活用が進まないのは、必要性を感じていないのでは
- ・シートの周知が足りない
- ・有効に活用されている
- ・活用できていない
- ・存在すら知らなかった
- ・タイムリーな情報提供ができていない
- ・シートの提出先がばらばら～医療機関で異なる

### Ⅳ、その他

- ・アセスメント不足（在宅生活を予測した退院指導が行われていない）
- ・連携不足（入院日が不明、退院前日に連絡）
- ・病院看護師の情報不足
  - 地域包括ケアシステムの整備状況を知らない
  - 介護保険のシステムを知らない
  - 連携シートがどのように動いていくのか知らない
  - 加算等について知らない
- ・病院看護師の退院指導が不十分
- ・ケアマネと病院看護師の壁
  - 連携室の窓口 誰が中心に動くのか
  - ケアマネに連絡するタイミングは誰がするのか
- ・連携シートだけでなく、カンファレンスに参加させてほしい
- ・病院側では、地域での情報がとてもありがたい
- ・窓口がどこにあるかわからない病院がある
- ・介護と医療がわかりづらい
- ・情報共有にどれほど活用されているか不明
- ・かかりつけ医と紹介医で書式を別にしてほしい
- ・窓口がわかりづらい施設は連携がとりづらい（入退院の連絡が遅れることがある）
- ・医療機関により退院支援が違う

## V、今後の課題

- ・退院時連携シートの必要性の再検討
- ・専門職への周知（加算等）
- ・病院内でのシートの活用研修の開催（ケアマネ主催）
- ・サマリーの統一
- ・シートの共有、簡素化、周知
- ・医療、介護の連携が困難
- ・目的に合った情報提供がタイムリーにできる
- ・連携シートの周知 提供の徹底
- ・病院側の迅速な電話連絡
- ・医療、看護、介護の観ている視点が異なる  
    病院職員の考える在宅の生活とケアマネの考える在宅の目線が異なる
- ・その人らしい在宅生活への移行 医療と介護が同じ方向へ進む
- ・病院とケアマネで共有して作っていく（様式やルール）

## VI、まとめ

- ①退院支援ルールの作成及び入退院時情報提供シート活用のルールづくり（退院支援基準など）  
↓
- ②退院支援ルールの周知を図るために、目的・活用の手順の理解を図る（説明会・研修）  
↓
- ③各職種、各現場がそれぞれ教育や体制の整備などの役割を担う。  
↓
- ④自宅での生活に向けた退院支援のツールとして、入退院時情報提供シートの活用を進める  
↓
- ⑤その人の望むその人らしい在宅での生活を送ることができる